

鎌ヶ谷市施策評価表(事後)

施策No.311

記入日 平成 25年 7月 25日

点検日 平成 25年 7月 30日

施策名	広域交流拠点の整備	施策担当マネージャー	都市建設部次長	マネージャー氏名	小高 仁志	内線	407
政策展開の基本方向	3 「躍動感と魅力あふれる交流拠点都市」をめざして	政策	3.1 魅力あふれるまちづくりを進めます				
関連計画・根拠法令等	①都市計画法 ②土地区画整理法 ③鎌ヶ谷市都市計画マスタープラン ④						

1. 施策の目的・成果	(1) 施策の対象(誰を、何を対象としているか。範囲は。)							
	①新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業 ②新鎌ヶ谷駅周辺の回遊性機能							
	(2) 施策の意図(対象をどのような状態にするのか)							
	①商業・業務・文化・娯楽等の集積が可能で、快適性・安全性・利便性に考慮した都市基盤が整備されます。 ②総合乗換駅機能が充足されることにより、賑わいとふれあいのある魅力的な商業・業務施設が集積します。							
基本事業	(3) 施策の成果							
		指標名	単位	平成21年度実績	平成22年度実績	平成23年度実績	平成24年度実績	目標値 (目標年度27年度)
	施策	新鎌ヶ谷駅乗降客数(1日あたり)	人	84,332	87,550	89,864	調査中	92,000
		新鎌ヶ谷地区事業所数	件	185	210	212	225	230
	基本事業	新鎌ヶ谷駅周辺地区市街地整備促進事業進捗率	%	12.0	12.0	23.0	23.0	29.0
		新鎌ヶ谷地区事業所数	件	185	210	212	225	230

2. コストの推移	年度	単位	平成21年度 決算	平成22年度 決算	平成23年度 決算	平成24年度 決算見込み額	平成25年度 予算額	目標年度(年度) 今後の計画総額
	コスト・指標	千円						
	(1) 総事業費 自動計算	千円	84,895	82,828	295,290	429,173	207,807	0
	① 国庫支出金	千円			4,950	60,500	81,400	
	② 県支出金	千円						
	③ 市債・その他財源	千円	18,646	18,646	224,863	292,871	78,219	
	④ 一般財源	千円	66,249	64,182	65,477	75,802	48,188	
	(2) 総所要時間(0.5単位) ①+②+③ 自動計算	時間 /年	5,197	4,637	6,998	7,171	0	0
① 正職員(時間内)	時間 /年	4,691	4,140	6,300	6,700			
② 正職員(時間外)	時間 /年	215	157	495	471			
③ 非常勤職員	時間 /年	291	340	203				

3. コスト説明	(1) 市民一人あたりコスト	円	70	(2) 全施策中の順位	この施策は、全42施策中	27	番目にコストをかけています。
----------	----------------	---	----	-------------	--------------	----	----------------

4. 環境分析	(1) 過去5年間で施策を取り巻く環境はどのように変わったか	・平成20年度には新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業の基盤整備が概ね終了し、換地処分が行われました。 ・センター地区の土地利用が促進されました。 ・平成22年7月には、成田スカイアクセスが開通しました。	(2) 今後施策を取り巻く環境はどのように変わることが予想されるか	・新鎌ヶ谷特定土地区画整理事業による基盤整備が平成20年度に完了し、平成22年度には成田スカイアクセスが開通したことから、地区内の土地利用が一層促進されることが見込まれます。 ・東武新鎌ヶ谷駅北側の橋梁が平成23年度に完成し、駅周辺の回遊性が更に高まりました。
	(3) 施策について市民や議会の意見(市民意識調査、個別要望・意見等)	・広域交流拠点の形成に向け、高度な土地利用が図られるよう企業誘致等への取組みが求められます。	(4) 国・千葉県の方針並びに関係法規等の変化	・平成27年度に開催が予定されている交通政策審議会において、東京10号延伸新線に係る方針が示される予定です。

5. 施策を構成する事務事業の状況※施策中優先順位順に記載	優先度	事務事業名	担当課																		
		新鎌ヶ谷駅周辺整備に要する経費	都市計画課																		
		新鎌ヶ谷地区広域交流拠点形成推進に要する経費	都市計画課																		

事務事業数が2以下の場合、優先度評価をしていません

6. 評価・検討	(1)行政関与の妥当性	3: 高い	(理由)なぜ、市が関与する必要があるのか？市民等との役割分担は適切か？ ・快適性・安全性・利便性などを備えた拠点づくりに向けて、地権者の理解や関係機関との調整が必要なことから、行政の関与は不可欠です。
	(2)目的妥当性	3: 高い	(理由)施策の目的は政策にどのように結びついているか。 ・市民及び来訪者にとって「人・物・情報」が交流する魅力あふれる新たな交流拠点が創出されます。
	(3)公平性	3: 高い	(理由)対象は偏っていないか？対象を広げたり狭めたりできないか？ ・新鎌ヶ谷地区は、市内並びに近隣市から多くの住民が利用する広域交流拠点であり、公平性があります。
	(4)有効性	3: 高い	(理由)この施策を廃止した場合支障があるか。同じ目的を持つ他の施策はあるか？さらに成果指標を伸ばせないか？ ・新鎌ヶ谷駅周辺地区を活性化させるためには有効な施策です。 ・当該施策を廃止した場合、新鎌ヶ谷駅は単なる乗換駅となってしまう可能性があります。
	(5)効率性	3: 高い	(理由)コストがかかりすぎているか？どうしたらコスト、所要時間を縮減できるか？ ・新市街地である地区内のコミュニティの確立については、市民との協働による地域づくりが必要となります。
	(6)総合評価	6. 精査・検証	(今後の方向内容) ・都市基盤整備完了後のまちづくりにおいて、住民、企業、行政の連携と協力のもとでの継続した活動が重要となるから、推進体制の仕組みづくりが必要と考えます。 また、市として、まちへの企業誘導等を積極的に行う必要があると考えます。

7. 改革・改善案	(1)改革・改善の方向	・新鎌ヶ谷地区の魅力を高め、まちの賑わいを創出するため、住民、企業、行政が一体となつてかつ継続的なまちづくりの活動を行います。 ・企業に対する地区のPRを積極的に実施します。
	(2)改革・改善案の概要 ※指標改善の根拠とコストを示す	・住民、企業、行政が連携してまちづくり活動を展開する組織の設立を行います。
	(3)改革・改善案の問題要因と克服策	・組織の在り方と運営における財源確保のため仕組み作りが必要となります。 ・企業へのPRIに関するアクションプログラムを作成
	(4)改革・改善案導入の考え方 ※施策担当マネージャー所感	・新鎌ヶ谷地区の魅力を高め、まちのにぎわいを創出するためには、実施主体としての住民、企業、行政が一体となつて自立的かつ継続的なまちづくりの活動を行う組織が必要であると考えます。また、まちへの企業誘導を促進するために、地区の情報発信を積極的に行い、企業との情報交換を行う必要があると考えます。

8. 成果とコストの方向性	成果の方向性	向上				
	コストの方向性	維持		○		
		低下				
		縮減	維持	増加	コストの方向性	

成果とコストの方向性に関する説明

現状維持

※評価検討(1)～(5) 1: 低い、2: 普通、3: 高い、4: あてはまらない
 ※総合評価検討(6) 1: 終了、2: 廃止、3: 休止、4: 縮小、5: 改善、6: 現状維持、7: 拡充
 1 終了: 事業が完了したので、終了する 2 廃止: 事業を廃止する
 4 縮小: 好ましくない状況なので、規模を縮小する 5 改善: 事業実施方法等について、改善した上、継続する
 7 拡充: 重点的に資源を配分し、規模を拡大する 3 休止: 再開を前提に休止する
 6 精査・検証: 精査・検証の上、継続する